

学習指導要領が変わりましたが・・・

体育の時間は、 どう変わりましたか？

日本体育大学教授
元 文部科学省スポーツ青少年局体育参事官付教科調査官
元 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

編著 白旗和也

学校には、なぜ？ 体育の時間があるのか

これからの学校体育への一考

2013年11月発行(予定)
B5判 144ページ(予定) 定価2,100円(税込)

内容

- 体育とは何を教える教科なのか？
- 体育の時間は何をやる時間なのか？
- 体育を教えるとは何をすることなのか？
- 学校体育はこれからどこへ向かうのか？
- 国民みんなが通る道としての学校体育
- 座談会
「学校体育のアイデンティティを探る」
杉田 洋 × 笠井健一 × 岡田京子 × 白旗和也
- 対談
「新しい部活動の挑戦」
世田谷区立東深沢中学校校長 松平昭二
「好きでないことを好きにさせるのは難しい」
日本プロ野球選手会 事務局次長 森 忠仁
「女性とスポーツの新しい地平」
日本サッカー協会 理事・女子委員長 上田栄次
副委員長 今井純子
- 寄稿
「学校体育は何を保障するのか～海外との比較から」
(岡出美則 筑波大学教授)
「かかわり」が生み出すもの
(松田恵示 東京学芸大学教授)
「学級経営と体育の授業」
(細越淳二 国士舘大学教授)
「学習における教材づくりの視点」
(岩田靖 信州大学教授)
「運動好きを育てる工夫」
(田所潤子 高知市立横浜小学校教諭)

hito*yume
インタビュー

ゴリ (ガレッジセール)

巻頭特集

知らない人はいないと言われているゴリさん、お笑い芸人のゴリさん。NHKの連続ドラマにも出演して広くお茶の間に親しまれる一方、民放番組から生まれた「ゴリエ」のキャラクターで紅白歌合戦に出場したこともある。中学時代に荒れていたことは番組でも公言しているが、その背景にあったゴリさんの思いを聞いた、このインタビュー。思いがけずも現在の教育に対するゴリエさんの真剣な思いと悩みが浮き彫りになった。

【ゴリ】

本名・照屋年之。1972年、沖縄県那覇市生まれ。1995年、中学校時代の同級生だった川田広樹とお笑いコンビ・ガレッジセールを結成し、デビュー。瞬く間に人気者となる。2009年には映画「南の島のフリンム」で監督デビューを果たす。

学校では独りぼっち、 家でもずっと気をつかっている。 でもテレビの中の人には笑ってた。

テレビを見ている
ときだけは
寂しくなかった

前の仕事が長引き、インタビュアーの場所にまさに駆け込んできたゴリさん。「すみません！遅くなって」と、しきりに恐縮する。企画趣旨を説明しようとして「hio * yumeのバックナンバーを差し出す」と先日送っていたいただいたので、読みました。小学校の先生向けですよ。先生向け、先生向け……と、自分に言い聞かせるようにつぶやく。ゴリさんというと、テレビの中の弾けるような濃いキャラクターと、中学校時代に荒れてしまったが恩師の「熱血指導」で立ち直った——という話が有名。しかし、今、目の前にいるゴリさんは、礼儀正しくてとてもまじめな印象。やはり生い立ちから話を聞いていこうと思う。

ゴリさんは沖縄出身ですが、小学校時代は大阪で過ごされたそうですね。

入学式の2週間ぐらい前だったんじゃないかな。事情があって、父の兄夫婦、つまり伯父さんの家に預けられることになったんです。伯父といってもそれまでほとんど会ったことはありませんでしたし、大阪も初めて。言葉も沖縄弁と大阪弁じゃ全然違いますから、一人で外国に預けられたようなもんです。

小学校では、ほかのみんなは地元の幼なじみもいたりしてどんどん仲良くなっていくんですけど、ぼく一人だけポツンと。いじめられたりとか、そういうことではなかったんですけど、沖縄弁をしゃべったら笑われるんじゃないか……なんて心配して、一人、殻に閉じこもってました。

伯父、伯母もよくしてくれていたんですよ。でも、ほぼ初対面に近いほくにとっては、やっぱり「他人」みたいなもの。学校から帰ってもずっと敬語なんです。学校では独りぼっち、家でもずっと気をつかっている。1年生の子どもにとっては、きついですよ。だからその頃は、テレビだけが友達。家に帰ってきてテレビを見ているときだけは寂しくなかった。

それに、テレビの中の人って、みんな笑ってるんですよ。とっても楽しそうで、「いいなあ、ぼくもテレビの中の人になりたいなあ、あっち側の世界に行きたいなあ」って、ずっと思っていました。

小学校時代はそのままずっと引込み思案の子もだったんですか。

と今度は浦島太郎なんです。自分では「帰ってきた」っていうつもりなんですけど、5年近く大阪に住んでいたのに、言葉はすっかり大阪弁。周りとは全然違っている。なかなかじめなくて。そんなときにつき合いたしたが、悪いことばかりする連中で、それで、どんどん……。

小学校5年生から！ いったいどんなことをしていたんですか？

あの……、ちょっと言えないです。うーん、やっぱり言えない。今、小学生の男の子に「君、何年生？」って話しかけたときに、「5年生！」なんて答えられると、一瞬ぎょっとしてしまうんです。俺が5年生のとき、つまりこの男の子くらいだったときに、あんなにひどいことをしていたんだって思うと、ぞつとします。それほど悪いことをしていました。

仲間のうちの誰かが、何か悪いことをする。すると今度は自分が、「何だそんなこと。俺なんてこんなことやっちゃうんだぜ」みたいな感じで、さらに悪いことをする。そうやってどんどんエスカレートしていくんで



生まれ育った沖縄から一人離れ、大阪の小学校に入学したゴリさん。

いや、さすがにそれはなかったです。人って独りぼっちでいると人間観察を始めるんですね。クラスの人気者たちを観察して、「ああ、あの子は勉強ができるから注目されるんだな」「運動が得意な子は人気があるな」といったことが見えてくるんです。じゃあ自分はどうだろう。勉強ができるわけじゃないし、運動も普通。そうだと、人を笑わせることはできるかもしれない。よし、やってみよう……って、ある日、掃除の時間に並べた机の上にながって、ほうきをマイク代わりに「あー、ワタシの恋は〜」って、テレビで見ていた松田聖子さんのものまねをやったんです。

それを見ていたみんなは、啞然としちゃって。それから爆笑ですよ。ね。「なんだお前、暗いやつかと思っただけだよ。あんなことやっていたのかな。」

荒れてしまうのを家庭環境のせいにしちやいけないと思いますけど、でも、家庭に問題のあるやつが多かったのは確かですね。家に遊びに行くと、お父さんとお母さんが大喧嘩の真っ最中。刃物を持って「このやろう、殺してやる」なんてやっているとこから、平気な顔をして「おう、来たか」なんて言っ出てくるんです。これだともて育てというほうが無理ですよ。

お父さんとお母さんの仲が悪いからとか、暴力を見せつけられているからというわけじゃないんです。もちろんそれもあるんですけど、結局誰も自分のほうを見てくれない、自分に関心をもってくれないというところが、つらいんです。自分の存在意義とか、自分が本当はどうなりたいなんてことは、わかんなくなっちゃいますよ。

だから、一度悪いことをして「あいつ、すげーじゃん」ということになる、それを繰り返すようになってしまおうかなと思います。もって俺を見てくれっていう気持ちで。



「掃除の時間に、机の上でほうきをマイク代わりにいきなり歌い出したんです。『あー、ワタシの恋は〜』って。」

帰ってきたつもりだったのに、周りは全然違っていた

ゴリさんは「中学時代は荒れていて、先生を困らせた」という話がある有名ですが……。

正確に言うと、荒れだしたのは中学校からじゃなくて、小学校からなんです。

小学校5年生の途中で沖縄に帰ることになり、転校しました。そうす

らおもしろいやんか！」って。それで一気に友達が増えました。



ほくは大阪の小学校でみんなの仲間に入りたくて、注目されるために松田聖子さんのものまねをやったのと同じような気持ちがあったのかもしれませんね。ただ、それが悪いほうに出ってしまったと。

このままだと自分はどうか怖くなった

ゴリさんはテレビなどで、中学校時代に恩師から受けた、いわゆる「熱血指導」について話をされますが、本当にあんなにすごかったんですか？多少脚色も入ったネタなのでは？

いえ、ネタなんかじゃありません。全部事実です。当時生徒指導をされていた平良先生。悪いことをしたときには指導のために殴ることも辞さないという、熱い思いをもった先生でした。私の悲鳴が生徒指導室から校舎中に響いてましたから。「照屋（ゴリさんの本名）、平良先生が指導室に来て呼んでるぞ」って言われると、本当にひざが震えました。怖かったです。

でも平良先生は怖いだけじゃないんです。本当に親身になってほくたちのことを考えてくれて、「とにかく高校には行けよ。中卒と高卒じゃ、就職だってずいぶん違うんだからな」ってよくおっしゃって、休み返上で勉強を教えてくださいました。つまり高校にいけるかどうか危ないほど、ほくたちの成績と素行が悪かったってことなんですけどね。

荒れていたゴリさんが立ち直ったのは、この先生の熱血指導があったから？

確かにそれも大きいんですが、直接には、ある出来事がきっかけです。平良先生が一生懸命指導してくれているのはわかってはいたんですが、それでもなかなか悪いことをやめられず、夜中に家を抜け出したり、朝方帰ってきたりという生活を続けていました。補導されたことも何度もありました。

中学2年のある夜、警察沙汰になるような事件を起こしてしまいました。明け方、警察署に飛んできた母が、「何でこんなことしたの……」って、泣き崩れるんです。

それまでも何度か母のそういう

ほめられた40点は、ほくにとつこの100点

「ちゃんとしよう」と思ったゴリさんは、それからどうされたのですか？

勉強です。

明け方の警察署で泣き崩れる母を見て「ちゃんとしよう」って思ったとき、まず頭に浮かんだのが「塾に行こう」っていうことです。

小学校5年生のときからまともに勉強なんてしていませんでしたから、成績は1学年260人くらいの学校で、250番くらい。テストの点数だつて、100点満点で8点とか。しかもそのことを全然恥ずかしいことだと思っていない。むしろ勉強ができることはかっこ悪いと、「成績の悪さ」を自慢していたほどです。

そんな状態ですから、学校の授業は全然わからない。今さら恥ずかしかったんですが、しかたがないので親に「塾に行きたいんだけど……」と言ったら、「お前はいったい何を言い出したんだ」って。ポカーンとしました。

でも、せっかく本人がその気になったんだから……と塾に通うことになっ

姿は見えていましたが、なぜかその日は、「ああ、何でこんなことしたんだらう。いつまでこんなことしてんだらう」って、自分の中にポカーンと穴があいたんですよね。今まで悪さを繰り返していたのは、親に注目されたくてやっていたのか、仲間はずれにされたくなくてやっていたのか、本当に悪さをしたくてやっていたのか……わかんなくなってしまうって。

どうしてそう思ったのか……。うーん。わかりません。どうしてそう思ったのかなあ。でも、そのとき自分の気持ちも淡々としていたことは、今でも覚えてます。警察署で正座させられながら、泣き崩れる母を冷静に見ていました。親にここまでさせちゃったんだな……って思いました。どこか醒めた自分がいて、「このままじゃいけない」って。

あと、このままでいったら、自分はどうなっちゃうんだらうって、怖くなったような気もします。

2009年にゴリさんは、「南の島のフリン」という映画を監督している。このときの主題歌としてゴリさんが作詞した曲が「ウンジュの原点」。ウンジュとは沖繩の言葉で「あなた」のことだ。その一部を紹介しよう。

たんですが、「この成績では中2のクラスは無理です。中1の基礎クラスでよければ」ということになりました。

そこで勉強を始めると、少しずつ勉強がわかるようになるんですよ。テストの成績も一気に30〜40番も上がったんです。そうすると親も先生方も、ものすごくほめてくれるんです。それがうれしくて。ちょっと成績が上がっただけで、こんなにほめてくれるんだって。やっぱりやる気が出てくるんです。

100点を取っても、ほめてくれる人がいなかったら0点を取ったのと同じだと思うんです。ほくの場合には40点だったけど、みんながものすごくほめてくれるから、ほくの中では100点なんですよね。自信もついてくるし、やる気も出てくる。

ほめられるって、存在を認められることじゃないですか。自分が認められれば、もつとがんばろうって気持ちになる。悪いことやって泣いている母親を見るよりも、喜んで笑っている母親を見るほうが、気持ちだつていいですね。

よし、今度は200番を目指そうと思ってがんばると、180番にな

泣き崩れる母を見ながら 自分の中にポカーンと 穴があいたような気分でした。



中学校の修学旅行にて。ゴリさん(中央)の前にいるのが、のちに相手となる川田広樹さん。

ウンジュの原点
お帰りなさい 疲れたでしょう
南の風で包んであげる
母も変わらず畑にいるわ
少し白髪が増えたけど
自分が生まれた道のり歩く
ここがウンジュの原点よ
もう一度 もう一度 戻ってみようかな
変わらぬ歌 いつまでも優しい海
悩んだ事も 忘れてしまっ
魂隠して 手にしたもの
本当に本当に大切なものかな？
さよなら おかえり
ウンジュの帰る場所は何処ですか

る。じゃあ、次は100番以内にと
思ってたにがんばるといった感じで、
3年生の最後の定期テストでは、つ
いに学年で8番になり、近くで最も
進学校だった首里高校に合格してし
まったんです。

学校中でものすごく話題になりま
した。あの照屋が8番になって、首
理高校に受かったと大騒ぎです。

学校の先生たちがみんなでほくの
家まで来て、両親に「本当におめで
とうございます」って言うってくれた
んです。

母は「この子を刺しても私も死のう
と思ったこともありました。本当に
皆さんのおかげです。ありがとうご
ざいます」って、ずっと泣いていま
した。

ああ、がんばってよかったな。が
んばればできるんだな。悪いことやっ
て仲間から認められる存在意義より、
努力が認められ、ほめられたときの
存在意義のほうが100倍気持ちい
いなって思いました。

中学生たちに講演し ヒーロー扱い

どん底の状態から見事にはい上がり、

進学校に合格。それからは勉強の
おもしろさも知って……。

いやあ、高校に入ったらもう安心
しちゃって、「青春」ですよ。サッカー
部に入って、彼女もつくって、あと
はバイクです。

みんなが大学行くんなら俺も行こ
うかなって思って大学受験はしたん
ですが、当然のように一浪です。

そこががんばって、自分の学力に
あつた大学を目指せばよかったん
ですが、中学のとき一度、学校中から
感動の注目を浴びてるじゃないです
か。あの照屋が首里高校に入ったつ
て。高校入学後、中学校から呼ばれ
て、中学生たちの前で「ぼくが立ち
直った理由」という作文を読んだり
しているんです。「ぼくはこういう
悪いことをやっていたんですが、が
んばって首里高校に入ることができ
ました。皆さんも夢に向かってが
んばってください」なんて。

ヒーロー扱いですよ。そうやっ
て注目されるのって、やっぱり気持
ちいいんですよ。味をしめて、また
みんなを驚かせたい、注目されたい
って考えるから、「俺が大学に行くん
なら、早稲田、慶応、東大あたりに
行って『やっぱり照屋はすごい』って

いて自分を見ることができるようになっ
たのだと言う。
2002年には結婚し、現在1男
1女の父である。

今、お子さんはおいくつですか？

上が4年生、下が2年生です。
ぼくは、子どもができてから変わ
りましたよ。それまではほぼ毎晩飲
みに行っていたんですが、今は仕事
が終わったら家に一直線です。自分
が小学生のとき親と離れ離れで寂し
い思いをしたので、できるだけ一緒
にいてあげようと思うんです。



「学校や先生のことについては、いろいろ聞いています。正直言って、
腹がたつ部分もあります。でも、今、先生方がとても大変な状況で、
苦しんでいるのは確かだと思います。じゃあ、どうしたらいいのか……。」

言われたい」と思っちゃうわけですよ。
模擬試験の結果なんか無視して、
そういうトップクラスの大学ばかり
出願して、受験のために東京に行っ
たんですが、試験の前日に盲腸になっ
てしまい、そのまま入院、手術。結
局1校も受けられず、二浪目に突入
です。

今度は、沖縄にいたんでは勉強に
集中できないからと言って上京し、
予備校生専門の下宿に入りました。
でも、そう簡単に勉強に身が入るわ
けがない。沖縄に帰ろうかななんて
思っていたとき、同じ下宿の友達か
ら「将来何になりたいの」と聞かれ
たんです。

はっきりした目標なんてなかった
んですが、小学生のときからテレビ
の中の世界、スクリーンの向こう側
の世界に入りたくなあと思っていた
ので、冗談のように「インディジョー
ンズのハリソン・フォードみたいに
なりたいなあ」と言ったら、「あ、俳
優になりたいの。じゃあ、日芸（日
本大学芸術学部）に行けば」ってあつ
さり言うんです。

ぼくはそれまで俳優を目指せる大
学があるなんて知らなかったんです
が、そういうところがあるんなら、

仲間と飲みに行くことも激減した
ので、番組で「〇〇さんのおもしろ
いエピソードありますか」なんて言
われても全然出てこない。これって、
芸人としてまずいんじゃないかな、
なんて自分で思うほどです。
運動会や授業参観にも行きたいん
ですが、土曜日に生放送のレギュラー
があるのでなかなか……。日曜日な
ら行けることもあるので、運動会の
ときはいつも「雨で順延にならない
かな」って思ってます。

学校の先生に伝えたいことは
ありますか？

自分の子どもが小学校に通い、知
り合いに教師もいるので、今の学校
や教育にはとても関心があります。
そして、今、先生方は本当に本当に
大変だなと思います。

例えば体罰の問題。正直に言って
ぼくは、体罰が本当に悪いことなの
か、絶対に許されないことなのか、
わかりません。自分の経験があるか
ら、そう思ってしまうのかもしれない
せん。

でも、今、教育現場では、ちょつ
とでも体罰ととられるようなことを
するわけにはいかないということも

何とかその大学に入りたいと思うよ
うになったんです。

今、先生方はとても
苦しんでいると思う

俳優という目標を得て、見事、目
指す大学に合格したゴリさん。その後、
お笑い芸人としてデビュー。瞬間
に人気者の座へと駆け上った。師匠
につくこともなく、養成所に通うこ
ともなくここまで成功することは、
芸能界では稀なことだ。それゆえ常
に焦りを感じていたと、ゴリさんは
明かしてくれた。最近やっと落ち着



デビュー当時のガレッジセール。

知っています。先生方はとても苦し
んでいると思います。

……時間、かな。時間を味方につけ
るしかないのではないのでしょうか。

時間をかけて、ねばって、先生の
気持ち子どもに伝える。子どもの
気持ちを聞く。大変なことだけど、
くじけないでがんばってくださいと
言うことしか、ぼくにはできません。
本当に大変なことですよ。ほかにど
うしたらいいのか……。簡単に答え
が出るようなことじゃないですよ。
あー、どうしたらいいんだろう。考
え込んでやうな。

でもぼくは学校でつらい思いもし
たし、立ち直らせてもらった。そし
て今は自分の子どもが通ってる。だ
から本当に、今、学校の先生方には
がんばってほしいと思っています。

インタビュー終了後も、ゴリさん
はしばらく考え込み、椅子にこしか
けたまま。マネージャーさんに促され
て立ち上がってからも、時折「どうし
たらいいんだろう……」とつぶやく。
真剣に考えていることが伝わってくる。
荒れていた中学時代の自分の気持ち、
真剣に接してくれた先生への思い、
そして子どもをもつ親としての思い
が渦巻いているのが、その肩のこわ
ばりから伝わってきた。